

札幌市立簾舞中学校の取組【雪に関する教育課程】

1 研究のねらい

本校は自然豊かな山間地に位置している。厳しい冬の自然の中でありながら、住民はこの地域に対する愛着をもって冬期間の生活を楽しんでいる。地域の中でも若い世代である中学生たちが、親の世代と同様に、この地域に住む楽しさを実感することに加え、

郷土である札幌の冬の特徴を客観的・理論的に捉え、地域の生活向上に向けて意欲的に考え活動することで、自己有用感を醸成し、将来のまちづくりに貢献できる人材の育成を目指し、研究を進めてきた。

「雪に関する教育課程」の研究を進めて2年目となった。昨年度は各方面の協力により様々な取組を行い、成果がみられた。昨年度の成果を生かし、ねらいをより深く達成できるような取組の工夫を目指した。



平成 29 年度生徒会作成
簾舞中学校除雪マップ



平成 29 年度雪かき汗かき
チャレンジ学校賞



平昌オリンピック出場卒業
生パブリックビューイング

2 取組内容

(1) 札幌市雪対策室職員・南区土木部職員による除雪に関する講演会（9月予定・中止）

本格的な冬シーズンに入る前の9月中旬、札幌市雪対策室職員と南区土木部職員を招き、除雪に関する全校講演会を行う予定であった。この講演会は昨年も全校生徒を対象にして行っているため、昨年度受講済みの2・3年生向けの内容と、新たに受講する1年生向けの内容の両方に対応できるものになるよう事前打合せの段階で要望し、新しい内容を盛り込んだ講演を考えていた。しかし北海道胆振東部地震の影響で、本校の行事予定を変更せざるを得ない状況となり、やむをえず中止することとなった。予定通り実施できていたらその後の取組の充実に結び付いていたと思われる。残念であった。

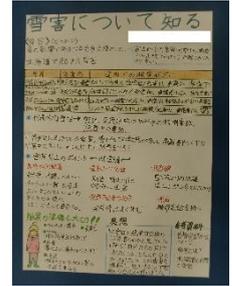
(2) 図書館「雪に関する資料展示」（12月～1月）

雪に関する学習を支援する活動として、学校図書館司書と生徒会図書局との協力により、雪に関する様々な種類の資料を展示・閲覧するコーナーが設けた。日常の閲覧はもちろん、これからの活動の事前学習等にも、有効に活用されていた。講演会中止による資料不足を補うため、学級活動等の時間に図書館及びコンピュータ室を活用する学年もあった。このコーナーがあることにより、雪に関する学習の意識付けを図ることにつながった。



(3) 雪・除雪に関する掲示物作成（冬休み）・掲示（3学期）

1年生は「除雪」、2年生は「雪」をテーマに、冬休み中に除雪に関する掲示物を作成した。昨年度同様真っ白なA4版上質紙に各自で小テーマを設定して調べたことを自由にまとめたが、一人一人の持ち味が表れた見応えのある作品となった。廊下掲示してある昨年の作品を参考に、よりよい掲示物作りができた生徒もいた。



(4) 生徒会「雪かき汗かきチャレンジ」への参加（12月～2月）

① 参加に向けてのPR活動（12月）

生徒会が毎年力を入れている12月の全校集会「歳末助け合い運動集会」の中で、生徒会の役員が「雪かき汗かきチャレンジ」への参加を呼びかけ、札幌市雪対策室作成のDVDを視聴して除雪に関する知識を全校で共有した。



② 「雪かき汗かきチャレンジ」への参加と「除雪カレンダー」の作成（12月～2月）



平成28年度・29年度と2年連続で学校賞を受賞しており、3年連続の受賞を目指し積極的に参加を呼びかけた。より高い目的意識をもたせるために各自が除雪の取組を「除雪カレンダー」に記録し、生徒会が結果を集約して掲示物

にまとめた。3年連続で充実した取組にするためにはモチベーションの低下を防ぐ手立ても工夫した。授賞式に参加する着ぐるみを一体ずつ増やし、3年目には「おっほんも呼ぼう」が合言葉となった。

(5) 「雪と暮らすおはなし発表会」への参加（3月）

札幌市雪対策室と札幌市教育委員会主催の「雪と暮らすおはなし発表会」プレゼンテーション部門に、生徒会執行委員会の生徒が参加した。総合的な学習の時間等で培ってきたプレゼンテーションの力を試す良い機会となった。

3 成果と課題

(1) 成果

2年連続の研究であり、昨年度の取組により雪に関する客観的・理論的な思考の充実を図ることができている。今年度は昨年度の取組を「雪に関する学習」の本校スタンダードとして踏襲したことに加えて、考えたりまとめたりしたことを外部に向けて発信する取組も行うことができた。小規模校のため人前で発表する機会をなかなかもてない本校生徒にとっては、良い経験となった。

(2) 課題

雪に関する学習の導入にあたる9月の講演会を地震により中止したことで、各取組の系統性を理解させたいうでの取組に結び付けることが難しくなった。突発的な日程変更にも対応できるような日程的な余裕があるとよい。また、全校講演会を毎年行う場合、同じ内容が続かないような工夫が3年分は必要である。